輝け！理系女子リケジョ

＊第47回＊

鎌倉真音

Microsoft Research

センモンがないのが専門？

こんにちは．鎌倉出身の鎌倉真音と申します．中国・北京にあるMicrosoftの研究所，Microsoft Research AsiaのOutreachグループに所属し，普段は日本・東京のオフィスに常駐しながらお仕事をしております．学生時代，2度ほど論文を掲載していただいたことのある，本誌にて今回このような機会をいただくことができて，うれしいなぁ，と思いながらこれを書いています．おつなぎくださった先生に大感謝です．今回ここでは，私のこれまでの歩みや感じていること等を少しお話ししてみようと思います．

ある日突然，ご縁からマイクロソフトに．…アウトリーチ？

私のお仕事は，Research Program Managerです．日本国内でのアウトリーチ活動をメイン業務としています．

Microsoft Research: マイクロソフトリサーチ（MSR）はComputer Scienceに関する基礎から応用展開までのさまざまな研究活動に取り組んでいるマイクロソフトの研究組織です．私はそのアジアの拠点である中国・北京のMicrosoft Research Asia，通称MSRAに所属しています．私のマネージャ（上司）もチームメンバも基本的にほぼ全員北京ですが，私は普段は東京を中心とした日本にいます．1998年にスタートしたMSRAはすでに20周年を迎え，約20の研究グループ，240名を超えるResearcher，約300名のinternがさまざまな研究活動に取り組み，素晴らしい人材も多数輩出してきた自負があります．私たちはOutreachグループのメンバとして，例えば，大学や研究機関などのResearcherの方々と共同研究をご一緒したり，北京のMSRAにてリサーチインターンを受け入れたり，などなどの連携，交流を多角度から試みています．私はこのアウトリーチ部門の日本担当で，現時点で私が日本で唯一のマイクロソフトリサーチに所属する社員です．平素よりたくさんの先生方，研究者のみなさま，そして学生のみなさまとさまざまな交流をさせていただき，ありがとうございます！ おかげさまで日々楽しくお仕事をしているのですが，私とマイクロソフトとのご縁は突然でした．私は学部卒業後，14年間，一つの研究室にずっと所属していて，その指導教員からの紹介をきっかけに，突然マイクロソフトのメンバになりました．研究室の先輩や同期などがだれか必ずインターンに行っていたので，MSRAのことはずっと身近な存在でしたが，研究室でほぼ唯一文系コースの学生だった私は直接関係することがないと思っていたので，まさか私が？ と，まったく思ってもみなかった展開でした（笑）．

研究室での生活が長かった私にとってMSRAはやはり居心地がよく，なによりも，アウトリーチとして研究内容等にフォーカスしながらEngageしていくお仕事に非常に魅力と意義を感じる毎日です．これまで，学振の書類等にアウトリーチ活動の欄があったりして，「アウトリーチ」という言葉にはある程度馴染みもありましたが，PRとはまたちがって，双方向性のあるコミュニケーションをとらせていただきながら一緒に進んでいくこと，分野への貢献を考えること等がおもしろさかなと思っていますし，新しい技術等を生み出していくワクワク感もあります．日本国内にこのようなポジションがもっとあったらよさそうだなぁと思ったりもしています．

Connecting the Dots

私はマイクロソフト社員ですが，ここでSteve Jobs氏の私の好きな言葉をあげます（笑）“Connecting the dots."予期せず突然マイクロソフト社員になった私ですが，いろいろなことがつながっていること，つながっていくことをいつも感じています．私は現在のお仕事に就く前，大学院生の期間も含めて，有形文化財の3次元ディジタルデータの保存と利活用についての研究に取り組んでいました．幼い頃から歴史が好きで，ということでもなく，情報系に興味があって，ということでもなく…学部時代の卒論の指導教員に，学会のイベントのお手伝いを一緒にしようと声をかけていただいて出向いた先で目にしたのが，その14年間お世話になった大学院の指導教員の講演で，3Dデータの鎌倉大仏がくるくるまわっているプレゼンテーションでした．冒頭にも申し上げましたが，私

† Microsoft Research
"What is my specialty?" by Mawo Kamakura
(Microsoft Research Asia, based in Tokyo)

Microsoft Research Asia北京オフィスのロゴの前で

MSRA 20周年記念バンケットでチームメンバーとともに

は鎌倉出身の鎌倉さんなので，どうにも3D鎌倉大仏が気になって仕方がなく，思えば単に好奇心ばかりでお願いをし，研究室見学をしました．研究室を紹介してくださったお姉さんはいま研究者として大活躍されています．ところで，大好きな私の母校（学部）は女子大で，学部卒業とともに就職をすることがまだまだ当たり前だったので，私も友人と就職に関わるイベントやセミナーなどに出かけたりしました．とある企業の女性社員の方が，いま大変だ！ と思うようなことが起こっても，あとから考えたら大したことなかったって思えることもけっこう多いですよ，とおっしゃっていたことが非常に印象的で今も常々思い返しています．ただ，その時の私は自分自身が就職するというイメージが持てずに，必修科目を再受講する必要があるほどの落ちこぼれ（！）であるにも関わらず，大学院に進学する，と決めてしまいました．これは日頃から，女性が進学したり働いたりすることをポジティブにとらえ，ご自身もそのような姿を示してくださっていた，指導教員のパワフルな笑顔の賜物だな，と思う次第です．ただし，単位を落としている私が簡単に大学院に受かるはずもなく，文字通り3度目の正直で修士課程入学の切符を手にしました．学部卒業後はいわゆる受験勉強をしていましたが，研究生って肩書きなんだから研究しよう，と言っていただき，全面的に先輩方にお力添えをいただいて，研究もはじめたので，私は，M-1，M0，M1，M2と修士を4年間やったよ，と思い込んでいます（笑）．この修士課程の頃から私の研究テーマはずっと文化財に関することだったのですが，実は卒論は，顔認識技術の評価に関する内容でした．その「顔」というキーワードが，カンボジアに顔が200近くあるお寺があるんだけど，その研究やらない？ と，研究室の先生にご提案いただくことにつながり，即座にハイ！ やってみたいです，と答えて，あとで，カンボジアってどこなんだっけ？ と調べ始めた私が，時を経ていまこれを書いております．顔のなにか，歴史のなにか，文化財のなにか，そして3D技術のなにかに詳しいわけではまったくなかった私です．カンボジアに行くにあたって，事前の勉強は，きっともっとするべきだったと思いますが，必要なことは，まず予防注射でした．超絶元気印の私も，数種類を接種したら逆に体調を崩しかかったりもしましたが，初飛行機，初海外としてカンボジアに渡航し，3週間を過ごしました．小学生の頃から陸上部だった私は体力もあり，現在のように軽量小型化される前のレーザセンサ等の機材を担いで世界遺産であるアンコール遺跡に登ったりしながら現場作業をしました．英語もしゃべれないのに，カンボジア人とカンボジア語でコミュニケーションをとってみたりもしていました．世界には実は英語が母国語じゃない人のほうが多いのかもしれない，と気付いて，じゃあ英語ができなくてもまぁいいか～などと妙な安心感と言い訳を得たような気がします．その顔がたくさんついているお寺はバイヨン寺院といいますが，おかげさまで顔を見るとどこの塔についているものか判別できるほどには何度も渡航し，データとも向き合う佳き日々を過ごしました．渡航の際に，ロジスティクスを担当することもあり，現地の遺跡保存修復事業の事務所をはじめ，UNESCO事務所，国立博物館の方々ともやりとりをし，滞在日数，渡航人数，機材数，車両数などを確認して，段取り調整をするなども嬉々としてやらせていただいていました．私自身の研究内容も3Dデータと文化財や美術史等の分野の研究との連携が多く，いろいろな関係者の方々と研究を進めながら文化財を護る活動に誇りをもっていました．このご縁が，文化財の研究所でのアシスタントの機会につながり，そのアルバイトのときのご縁がのちのエジプトのプロジェクト参画にもつながり，ツタンカーメンの埋葬品のスキャンをする貴重な経験もすることができました．指導教員の受け持っている講義でTAも経験し，たくさんの学生さんと過ごした豊かな時間もありました．もちろん論文書けない

よう…といったこともあったわけですが，これらの経験すべてが現在のマイクロソフトでの日々にもつながっていることに自分自身，面白さを感じています．

マジメに生きるんじゃなくて，楽しく生きよう，佳き文化の中で

これまでの経験から，文化，Cultureの大切さを感じています．文化財に携わっていたということもきっといい影響があるのだと思いますが，それぞれの地域，集まり，組織にはそれぞれのカルチャーがあります．それを知ろうとすること，理解してみようとすることって思っている以上に重要かもしれない，と特に最近思っています．マイクロソフトではGrowth MindsetとかComfort Zoneから出るとかそういう行動をとても大切にしています．今までがんばってきた場所はいつのまにか居心地がよいところになったりするものですが，時にはそういう場所から自ら出てみる勇気が次の景色を見るためにはきっと必要です．そして，小さな一歩をとにかく踏み出して，まず少しなにかやってみる．例え失敗と思うような結果が出たとしても，やってみたからこそわかったことだから，すばらしい．すぐにフィードバックを含めて次の一歩に変えてみる．この気軽に踏み出して挑戦してみることってけっこう大事なことなのだと思います．挑戦する土壌としての文化，マインドセットを整えておくことはとても大切だということですね．ところで，文化財の計測でイタリアにいたとき，13:00のアポに現れなかった担当者に，約束時間は合ってるけど，でもいまお昼だからごはん食べてるから，そのあたりでエスプレッソでも飲んで待っててね，と言われたことがありました．たしかに約束は約束なのだけれど，人間の生活リズムに合わせた考え方も必要なのかもなあと気付かされたりもしました．ちなみに，エスプレッソはおいしかったですよ．いろんなことから思うことは，完璧なまでにがんばるのが得意な私たち日本人，まじめに生きようとしてしまいがちだけれど，楽しく生きることを意識するってきっと思ってるよりずっと大事だなぁと感じています．業務上，Improveしなくちゃ，と思うことはたくさんありますが，でもそういうところを無理に探し出すのではなく，なにかのタイミングで，あ！と気付けたときに，気軽にすぐにさっとなにかに取り組むことができる私でい続けたいです．そのためにも，佳き土壌，カルチャーに身を置いていることって大切なのでしょうね．私が入社してからずっと，普段からの行動でそれを示し，数々のPositiveなメッセージを常に笑顔で伝え続け，支え続けてくれている私の大好きなManagerにココでもぜひ感謝をしたいと思います．日本にはおりませんが．彼の行動や姿勢そのものが佳きCultureとなっていて，私もそこから日本に向けて佳きCultureを生み出していく，そうやって佳きものがつながっていると思っています．

伝える≠伝わる

私は米国企業の，中国のチーム所属で，日本に常駐している，いろんな視点が得られるおもしろい立場にいさせてもらえているなと個人的に考えています．その中でよく気が付くのは，日本にいる方々は本当にとてもよくいろいろなことに細部にわたって丁寧に取り組んでいる，ということです．私はそれをいつもものすごく誇りに思います．一方でそれをうまく伝えられていないかもしれないということが，私自身も含めてたびたびあるようにも思っています．一生懸命伝えようとする姿勢は重要なことですが，「伝える」ことと「伝わる」ことはイコールではないな，と感じています．状況を俯瞰してみること，相手の立場を想像してみること，必要な事項を確認してみること，お互いにいいポイントを探してみること，などなどを通して，丁寧に，伝わるようにしていくことの大切さを日々感じています．「伝わる」というところにフォーカスして，より優しいコミュニケーションが増えるといいなぁと思っています．敬意もとっても大切ですね．私も気に留めながらさらに楽しくお仕事をしていきたいと思っています．

ところで，私は，この原稿のタイトルを，“センモンがないのが専門”としました．現職に就く前の期間もたしかにたくさんのことに携わらせていただいたのですが，それぞれの分野には専門の方々がいらっしゃる中で，私自身には専門といえるものがなにもない，とずっと思ってきました．博士課程にいれば，そういったことは大きな悩みの種にもなり，いろいろ考えあぐねたこともありました．でも思うんですよね，専門の方がいたらそれはその方に任せてみたらいいのではないか，と．自分自身に専門がないと思うのであれば，なにかを極めてみるのももちろん大賛成ですが，専門と専門をつないだり，専門がないからこその発想を大事にすればいいのではないかな，と．私はResearcherではないけれど，でもMicrosoft Researchのメンバだと胸を張って今は言います．英語に苦戦しつつも，なんとか伝わるように工夫しながら，私は私ができることをどんどん笑顔でやっていく．これは英語でなにかを表現するときにPositiveな言葉遣いをすることで慣れてきたうれしい効果かもしれないです．特に北京にいる私のマネージャには感謝ばかりです．

これを読んでくださったみなさんともいつかどこかでお目にかかれることをとても楽しみにしながら，この原稿をここで終えたいと思います．なにか少しでも伝わることを祈って．

（2019年8月26日受付）